京都芸術短期大学

【教育】

夕陽に映える瓜生山のアカマツ林、思う存分に枝を伸ばす雑木林。キッと天を睨む春の芽立ちの初々しくも厳しい姿は感動的である。この樹木たちのように、芸術を志す若者たちが瓜生山に集い、夢と悩みを共有しながら、自由闊達に学び、激動の社会へと羽ばたいていった。その仲間たちが今、地域にしっかりと根をはり、あるいは時代の最先端を走りながら、生き生きと芸術活動を展開しているのだ。「教えるとは　共に希望を語ること　学ぶとは　真実を胸に刻むこと」（ルイ・アラゴン）。1977年に産声をあげた当初は、本当に貧しかった。わずかな学舎での、

ゼロからの出発。しかし、そこには創造する喜びがあった。ストイックな環境でこそ、芸術的創造が培われる。強がりの一面もなきにしもあらずだが、振り返ってみれば真実。設立の趣旨に言う、「この学園に教師はいない」。誰もがいつも、鋭く自己を見つめなおしつつ、互いに認め合い、高めていく。そして、どんな困難に出会っても、夢と希望を胸に、学生と教職員がともに汗を流しながら、新たな世界の創造へ向かって歩んできた。京都造形芸術大学として生まれ変わった今後も、その伝統をしっかり受け継いでいきたいと思う。

✎ 尼﨑博正

京都造形芸術大学

【歴史】

1986年に創立された京都芸術短期大学を母体とし、1991年に短期大学と併設する形で設立された芸術系単科大学。当初は芸術文化学科、美術・工芸学科、情報デザイン学科、環境デザイン学科の4学科のみ、1学年150名の小規模な大学として発足した。その後2007年に7学科、2006年に10学科となり現在の学生数は大学院も含み約3000人で、関西の芸術系大学としては大阪芸術大学に次ぐ規模となる。また1997年に芸術系では初の4年制通信教育部を開設し社会人を対象とした教育に取り組む。現在その学生は全国に約6000人。さらに2006年には3～5歳児を対象としたこども芸術大学を設立、芸術と自然をテーマにした母と子のための独自の教育に取り組んでいる。建学の理念は京都文芸復興と芸術立国。芸術やデザインの制作およびその研究や普及により、平和で豊かな社会づくりに貢献できる人材育成を目標とし、教育研究機関でありながらも芸術的創造力の重要性を社会にたいし積極的に発信できる「ひらかれた大学」をモットーとする。創立者は徳山詳直で現在理事長を勤めている。

✎ 横内敏人